

〔報道〕

「南アルプスで写生中 足立画伯の受難」

・『東京朝日新聞』 昭和六年五月十五日

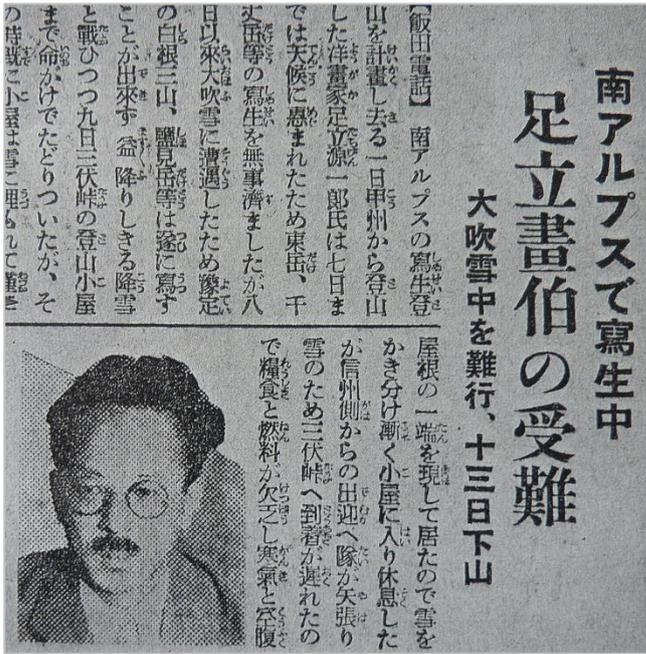
南アルプスで写生中

足立画伯の受難

大吹雪の中を難行、十三日下山

# 南アルプスで写生中 足立画伯の受難

## 大吹雪の中を難行、十三日下山



飯田電話】南アルプスの写生登山を計画し去る一日甲州から登山した洋画家足立源一郎氏は七日までは天候に恵まれたため東岳、千丈岳等の写生を無事済ませましたが八日以来大吹雪に遭遇したため豫定の白根三山、鹽見岳等は遂に寫すことが出来ず益降りしきる降雪と戦ひつ九日三伏峠の登山小屋まで命がけでたどりついたが、その時既に小屋に糧食と燃料が欠乏し寒氣と空腹

〔飯田電話〕 南アルプスの写生登山を計画し去る一日甲州から登山した洋画家足立源一郎氏は、七日までは天候に恵まれたため東岳、千丈岳等の写生を無事済ませたが、八日以来大吹雪に遭遇したため予定の白根三山、塩見岳等は遂に写生することが出来ず、益々降りしきる降雪と戦ひつ九日、三伏峠の登山小屋まで命がけでたどりついたが、その時既に小屋は雪に埋もれて僅かに屋根の一端を現して居たので雪をかき分け漸く小屋に入り休息したが、信州側からの出迎へ隊が矢張り雪のため三伏峠へ到着が遅れたので、糧食と燃料が欠乏し寒氣と空腹と戦ひつ十日、十一日を小屋内で過ごす内、信州側の救援隊が到着したため十二日雪の晴れるのを待つて下山し、十三日夕刻大鹿村へ到着した。

『東京朝日新聞』 昭和六年五月十五日

足立源一郎(あだちげんいちろう、一八八九—一九七三)

洋画家、作家、登山家。山岳画家として国内外に足跡を残し、『滝

谷ドームの北壁』『北穂高岳南峰』など数々の名作を遺した。

大阪府大阪市南船場生まれ。京都市立絵画工芸専門学校(現：京都市立芸術大学)を卒業後、浅井忠に師事する。パリへの渡欧留学を経て画家としての基礎を学ぶ。帰国後、小杉未醒、岸田劉生、木村莊八らと春陽会創立に加わる。石井鶴三らと日本山岳画協会を設立。また、山本鼎の農民美術運動にも参加する。一年の大半を山岳

1931 15 May

昭和6年（1931年）5月15日

（報道）「南アルプスで写生中 足立画伯の受難」東京朝日新聞

写生で過ごし、多数の作品を残した。画作は現場写生主義通した。著述に『山に描く』『ヴァン・ゴッホ』等があり文筆家としても知られ、近代美術の発展に多大な貢献を果たした。

一九一九年に自身の設計で建築した奈良市高畑町の旧足立邸は国の登録有形文化財に登録されている。